

歌集

風の丘駅

小松美枝

歌集

風の丘駅

みるめ書房



歌集 風の丘駅

平成十一年三月三十一日発行

著者 小 松 美 枝

655-0035 神戸市垂水区五色山四一九一九

電話(〇七八)七〇六一五五三四

発行者 田 中 孝 輔

発行所 み る め 書 房

神戸市灘区岩屋中町三一一四

印刷所 田中印刷出版株式会社

製本所 有限会社 須川 製 本

定価 二五〇〇円

目次

I

花影	3
白き帆	7
残像	12
野の鳥	16
鳥人願望	20
非在の銃	23
沖縄	26
家族の記憶	30
風姿花伝	32
けふはきさらぎ	34

長き冬

ドームの夜空

日び秋に向く

十月の雨

子犬

父たりしもの

阿修羅の祈り

水底の村

II

高みより墮つ

無機質の夢

蝕甚

37

42

46

48

51

55

58

60

67

71

74

ゆく方 かた

縞 コタンコロカムイ
梟

坂町

はつなつの風

KÔBE・CITY

かりそめの夏

グンデイライオン
西洋蒲公英

病棟

朱の橋

キャラバンシューズ

111 106 101 98 95 91 88 84 80 77

海の駅

都市回遊魚

水明りなす

火酒立たしめて

天地ひといろ

III

激震

捨てる・育てる

光の道

狼の歌

春を語るよ

119

122

126

129

132

139

144

146

150

154

幸^{さいち}

ひとよたけ

跋 笹原 涼

あとがき

157

160

163

167

花
影

川の面に写る小橋を渡りゆく人の
パラソル水より青く

白き蝶の群るる紋様
パラソルを廻せば秋の空に
飛び立つ

川の面に萩の花房垂りながら動かぬ影は鮠を潜ます

石橋の下陰過ぎて身を返す真鯉は艶にむらさきを帯ぶ

一両のちんちん電車を待つ三人梨を食みをり空高くして

はるばると来し山里の蕎麦畑季闌けてゆく光沈めぬ

飛びそめし赤蜻蛉^{あかね}は高く紋白蝶^{もんしろ}は蕎麦の畑を低く飛び交ふ

手のひらに三つ四つの明かりなる蕎麦の小花は浅紅を秘む

わが旅のボタンホールを飾りきし一茎の蕎麦垂れて夕暮

白き帆

船溜りに四つのヨット白き帆をならべて風は海を向きたり

波の秀も竿の穂先も染まりつつ風立つときを海は黄昏る

波間よりつぎて釣らるる小鰯のときに鋭く啼くものあり

潮風の運び来しもの夕空を人なくまはる観覧車の音

夭折の兄に習ひし癖なれば海瞻^{まも}りゐて口笛のいづ